

魅力発信！えひめ農業NOW

令和2年4月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス
※2 この動向は、4月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW」（4月分）

東予地方局 地域農業育成室

■さといも優良種苗の確保に向け室を超えた連携

- 東予地方局地域農業育成室と今治支局地域農業育成室は、4月10日、さといもの優良系統の種苗確保を目的とした、副芽大量増殖法によるセル苗育苗を普及させるため、実演指導を行った。
- 令和3年産の優良種苗を増殖するため、農事組合3法人（農事組合法人あぐりん川根、農事組合法人大頭、農事組合法人咲創）に、同方法によって増殖したセル苗1,000株を配布。今後セル苗を活用した栽培実証により、同技術の定着を目指す。
- 定植は、葉が展開し根鉢が形成される5月下旬を予定している。



親株からの副芽の切り取り



親株から萌芽した副芽



セルトレイに挿芽

※さといも副芽大量増殖法：頂芽及び腋芽を取り除いた親芋を、培養土に伏せ込み、30℃の温度条件で培養。萌芽した副芽をセルトレイで30日～40日程度培養することにより、優良種苗を大量増殖させる方法。

■集落営農法人が新たな担い手の社会保険を整備

- 西条市の旧小松町石根地区でメガファーム構想に取り組む「農事組合法人妙口原生産組合（代表：曾我敏数氏）は、地域農業育成室が紹介した農業大学校出身者を、2月からトライアル雇用し、5月から専従職員として正式に採用することとなった。
- これにあたり同室は、えひめ農林漁業振興機構が実施する農業経営者総合サポート事業を活用して、4月28日に社会保険労務士による勉強会を企画・開催。
- 勉強会を通じ、雇用に関する知識の向上を図った結果、同法人は担い手の社会保険制度を充実させていくこととなった。



社会保険に関する勉強会の様子

東予地方局 四国中央農業指導班

■霧の森に営農部門設立

- 霧の森（四国中央市新宮町）を運営する株やまびこ（代表取締役 篠原実（四国中央市長））は、令和2年4月、組織内に営農部門（新宮茶生産室）を新設し、「霧の森大福」の原料であるかぶせ茶の生産に着手した。
- この取組は、地域の高齢化・労働力不足による原材料不足が懸念されることから、自社生産を強化して、安定的に原料を確保することを目的としている。
- 当班はこれまで、他の茶生産者を含め要請に応じて随時支援しており、今後も新宮茶生産室が農作業支援体制の中心的な組織となるよう、栽培技術指導等を通して、継続的に支援していく。



茶園の直接被覆準備作業

※霧の森：茶をテーマとした観光交流施設、平成10年設立

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■かんきつマルドリ栽培の“技術マニュアル”を作成

- 地域農業育成室は、農研機構西日本農業研究センターと連携して、マルドリ栽培の「技術マニュアル」を作成した。
- このマニュアルは、革新的技術開発・緊急展開事業を活用し、「養水分制御を基盤とした樹体管理技術の確立による高品質カンキツ果実連年安定生産の実証」の平成29年度～令和元年度の調査、試験データを基に作成。
- マニュアルには、栽培における技術のポイントや経営のポイントが掲載されており、今まで勘に基づいた栽培技術であったものが、葉柄中硝酸イオン濃度や土壌水分を計測したデータを数値化することにより農家が使いやすい技術の見える化マニュアルとなっている。
- 今後は、マルドリ栽培に取り組む農家の指標として、講習会や園地巡回指導等で活用し、マルドリ栽培による高品質ブランド果実生産を目指す。



技術マニュアル

中予地方局 地域農業育成室

■高浜復旧モデル柑橘園の早期復興に向けて

- 中予地方局産業振興課は、平成30年7月豪雨で被害を受けた松山市高浜地区の樹園地の早期復興に向けて、市やJAなど関係機関が一体となったワーキングチームで営農再開を支援している。
- 同地区の改良復旧工事は、6月までに完了予定であるが、新型コロナウイルスの影響でワーキングチームが開催できないことから、関係機関と個々に情報交換し、営農再開に向け土づくりや品種選定、作型、補助事業の活用などスピード感を持って対応している。
- また、松山市由良や下難波等では、農地中間管理機構関連農地整備事業による園地整備が順次予定されていることから、他の地区でもワーキングチームを編成し、夢と希望をもてる柑橘産地を築く。

■ユーカリ株枯れ症の原因究明を目指して

- 地域農業育成室は4月7日、松山市小野地区で2JAや市など関係者が集まり「ユーカリ株枯れ症」の対応策を検証する試験圃場（5a）を設置した。
- 「ユーカリ株枯れ症」は、苗木定植後2年目から発病し枯死するが、原因が特定されていないことから産地で重大な問題となっている。
- このため同室では、試験圃場で剪定時期や整枝方法についての検証を行うとともに、生産者への株枯れの発生状況についてのアンケート調査を行うなど、発病実態の把握や原因究明に努め技術対策の確立を目指す。



試験圃場の設置

中予地方局 伊予農業指導班

■集落営農組織による「さといも」栽培面積が拡大！

- 伊予農業指導班は集落営農組織の経営の多角化を図るため、昨年度から、栽培管理が容易で収穫も柔軟にできる「さといも」の栽培を推進しており、4月10～28日にかけて、管内の4組織に対し「さといも」の導入啓発や定植指導を行った。
- 管内で「さといも」を栽培しているのは、「(農)ほのぼの農園」、「稲荷集落営農組合」、「川井営農組合」、「(株)まさきRookies」で、今年度の作付面積は1ha（昨年度0.3ha）へ拡大した。
- また、昨年度は3組織で、県内加工業者への「さといも」の共同販売を開始し、価格も安定していることから、今後も「さといも」の収量増加と、収益向上を図り、各組織の経営改善を目指す。



さといもの定植の様子

中予地方局 久万高原農業指導班

■久万高原トマト部会青年部が技術研修等をライブ配信

- 4月27日、久万高原トマト部会青年部は、会員等への技術力向上と産地の情報発信を目的に、Facebookを活用した「ライブ配信」を実施。それに伴い、久万高原農業指導班は、研修圃場での栽培指導や動画撮影等を支援した。
- 同青年部は、年に数回、会員の圃場等で技術研修等を開催しているが、本活動は新型コロナウイルス感染対策を兼ねたもの。今回は、研修生のプロフィールと育苗管理等を紹介した。
- 配信を受けた会員からは、追肥時期や鉢広げのタイミング等の質問がコメントにアップされ、同指導班職員が写真を用いながら回答した。
- 会員からは今回の取組について好評で、今後もブラッシュアップさせながら継続する。



ライブ配信画面とコメント欄

中予地方局 産地戦略推進室

■「さくらひめ」の無加温簡易雨よけ栽培に農家が関心

- 産地戦略推進室は、松山市農業指導センターの協力を得て、県が開発した『「さくらひめ」の無加温簡易雨よけ栽培』を同センター内で実証展示しており、2月に定植した苗は草丈30cmほどに成長し、6月中旬頃の収穫を見込んでいる。
- 4月17日には、松山市内の花き農家が同センターを訪れ、他の花き類とともに簡易雨よけ栽培を視察。同室職員が「さくらひめ」の特性や栽培管理の概要等について説明し、農家からは「暖房や電照が不要で、初めてでも取り組みやすく、今後、栽培を検討したい」との話があった。
- 当室では、引き続き同センターやJA等と連携し、本作型を含めた「さくらひめ」の新規栽培者の掘り起こしと生産拡大を進めることとしている。



実証圃を見学する花き生産者

南予地方局 地域農業育成室

■水田の濁水軽減実証圃設置で四万十川の水質向上

- 地域農業室は14日、四万十川支流の広見川に流出する代掻き時に発生する濁水の軽減を目的に、濁水中の細かい粒子の土壌を吸着・沈殿させる効果のある石膏資材を用いた濁りの除去効果の実証試験を開始した。
- 昨年度、当室が実施した宇和島市三間町の水田30aでの実証試験の結果、濁水を軽減させる効果が見られたことから、今年度は、管内全域に範囲を広げ、県、宇和島市、鬼北町、松野町、JAえひめ南、農業者代表で組織する「広見川等排水対策協議会」を中心に、各市町の8ヶ所、計220aで実証試験に取り組む。
- 当室では、この取り組みを農家の所得向上に繋げるため、濁水の調査に加え水稻の品質調査・高付加価値化等についても検討を行い、石膏資材投入による濁水軽減対策に取り組む水田面積の拡大を目指す。



実証圃の概要について説明



石膏資材を動散後に代かき作業

■ブラッドオレンジの長期貯蔵で新たな需要を掘り起こせ！

- 地域農業育成室は17日、ブラッドオレンジ(品種名：タロッコ)の鮮度保持技術を実用化し、お中元などの企画商品の開発や宇和島産ブラッドオレンジの認知度向上につなげるため、JAえひめ南と連携した貯蔵試験を開始。
- 当日は、約80kgの果実を用いて、包装資材3種類の試験区を設置するとともに、作業時間の短縮を図るため、包装資材の処理方法の違いが果実品質に及ぼす影響を調査。シーラーで止めたシーラー区、資材を捨ただけのひねり区をそれぞれ設置した。
- 今後は、果実の腐敗やへた枯れなどを毎月調査し、最終的に7月末時点での商品性を評価する予定。
- ブラッドオレンジについては、令和2年度から宇和島市、JAえひめ南、生産者と連携し、新たな振興対策を協議することとしており、当室では、当試験結果を基に夏季販売の企画商品の提案などによる産地力の強化を図る。



袋詰め作業の様子

南予地方局 鬼北農業指導班

■桃園の樹の掘り取り調査を実施(排水対策モデル園の効果実証)

- 鬼北農業指導班は14日、高度普及推進G、松野町と連携し、松野町立石にある(株)源吉兆庵向け桃園において、土壌の多湿状態が樹の地下部に及ぼす影響を確認するために、掘り取り調査を行った。
- これは、鬼北管内では、水田転換園に果樹(栗、ゆず、桃等)の植栽を行う事例が多く、生長に伴い、多湿が原因とみられる樹勢低下等により枝枯れや樹が枯れる症状が見られ、(株)源吉兆庵向け桃園においてもその症状がみられることから調査を行ったもの。
- 今回の調査により、一昨年に当指導班が設置した排水対策モデル区の樹(2年生)では、未対策区に比べ全体に根量が多く、特に新しい細根が多い状態であったが、未対策区の樹(7年生)では、中・大根しか見られず、根量も少ない状況で、掘り取りの最中に根群の下から水が湧き出すなど、多湿が樹勢低下の主原因であることが推察され、排水対策の重要性を確認することができた。
- 当指導班は、今回の調査結果を取りまとめ、水田転換園を改植する場合の排水対策を推進する。



桃園の樹の掘り取りの様子



左：7年生既存園 右：排水対策樹2年生

南予地方局八幡浜支局 西予農業指導班

■いちご「紅い雫」のメニュー化等が進む

- 西予農業指導班は、いちご「紅い雫」の個人ブランド化に取り組む生産者に対し、飲食店でのメニュー化を支援。
- 東京都の「ロシエル山王」では、愛媛フェアに合わせたコース料理2品に、宇和島市の「ビストロEBISU」では、サラダやいちごパフェとして提供が始まり、好評を得ている。
- また、愛媛新聞社の季刊誌「ハーベスト」で紹介されたことで、通販サイトで「フルーツ売れ筋ランキング4位(全国)」を獲得しており、その反響により、西予市の「ふるさと納税返礼品」の申込み者も増加するなど、知名度アップにつながっている。
- 飲食店では新型コロナウイルス感染拡大により休業・時短営業しており、注文がストップするなどの影響が出ているが、今後納品先の状況を把握しながら、納品や新たな提供方法を検討する。



「ロシェル山王」のスイーツ



「ビストロEBISU」のメニュー

■西予市大野ヶ原で寒地系ニンニク産地化計画の具体化が進む

- 西予農業指導班は、西予市野村町大野ヶ原において青森県が主産地の寒地系ニンニク「ホワイト六片種」の導入及び産地化を支援している。
- 寒地系ニンニクは本県では栽培事例がなく、安定生産のための技術的課題の明確化や大玉で糖度の高い寒地系のニンニクの特徴を活かした販売及び加工品の開発などにより産地化を目指している。
- 現在、生産者 12 戸が 2 年目の実証栽培に取り組んでおり、6 月下旬に収穫予定のニンニクは、新ニンニク、乾燥ニンニクとしての販路開拓（試験販売）や松山市の企業と共同で黒ニンニクの加工試験等を計画している。
- 指導班は、技術確立及び生産者の組織化や販路開拓、生産基盤（機械施設等）の整備に向けて、県、西予市、農地中間管理機構等の関係機関と連携し、活用可能な助成事業の選定など産地化ビジョンの具体化に向けて取り組む。



ニンニク産地化計画検討会

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■フィンガーライムの産地化ステップアップに向けた活動を開始

- 産地戦略推進室は 4 月 23 日、「新たな果樹産地づくり推進事業」（局予算）に係る令和 2 年度第 1 回フィンガーライム産地化検討会を生産者代表、農産園芸課、みかん研究所担当者を参集し、八幡浜市高野地の現地圃場で開催。
- 検討会では、令和元年度の活動実績及び今年度の技術確立や販売促進活動計画等について協議。また、フィンガーライム栽培園で実施した研修会では、参加者で、栽培管理や苗木の育成方法を確認するとともに、今後の販売促進や PR 方法について意見を出し合った。
- 当室では、今年度は特に、1 月に栽培希望者を含めた 10 名で設立した産地化推進協議会をベースに、補助事業を活用した施設整備や販売促進活動等による産地化を重点的に支援することとしている。



フィンガーライムの栽培管理方法について検討

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市東大洲 174 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543